

『重なり合う自分の居場所』

Overlapping individual place

地上階（1～2階）は、現在の渋谷の中心である商業施設中心のエリアとの関係が強い「ローカルなシブヤ」として一体的なイメージとなる。

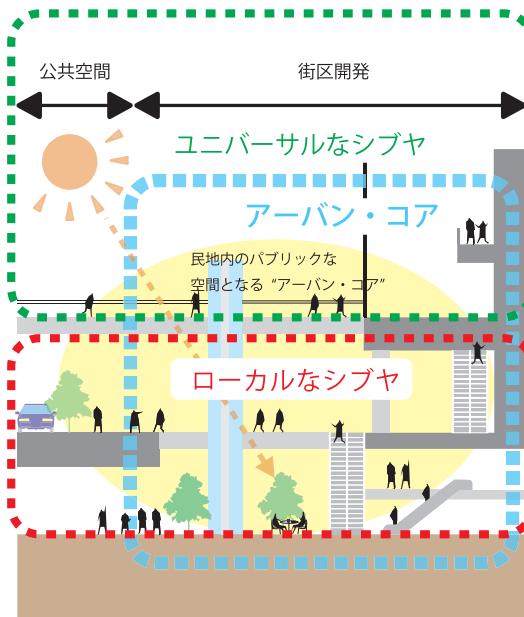
一方、上空階（3階）以上は、主に東西の事務所施設中心のエリアとの関係を強めていく「ユニバーサルなシブヤ」として、立体横断施設を介した繋がりとなっていく。

「アーバン・コア」



- 多層な都市基盤やまちを上下につなぎ、地下及びデッキから地上へ人を誘導。また、横方向への動線を結ぶユニバーサルデザインに配慮した縦軸空間
 - 広場等のパブリック空間とも接した立体的なクロスポイント
 - 人々が快適に移動でき、憩い・集える空間
 - 視認性が高く、まちに対して開かれた駅前のランドマーク
- （「渋谷駅中心地区まちづくりガイドライン 2007」引用）

多世代が交流する結節点



多層な都市基盤として、「ローカルなシブヤ」と「ユニバーサルなシブヤ」があり、この2つが交じり合い、多世代が交流する結節点としてアーバン・コアが使われる。

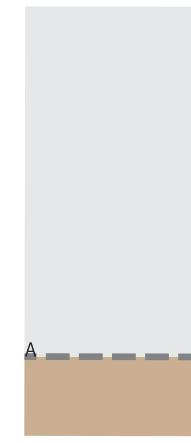
ユニバーサルなシブヤ

地形とまちの使われ方の関係から建物のレベルが3階以上に該当するパブリックスペースを、大人向けの特徴を持つエリア「ユニバーサルなシブヤ」として位置付ける。

- 該当するパブリックスペース
- ・南口自由通路～南街区、桜丘口地区
 - ・4階広場空間
 - ・3階広場～3階コンコース（北側）
 - ・丘の上広場
 - ・東口スカイウェイ～西口スカイウェイ
 - ・3階コンコース（南側）
 - ・さくらにぎわい広場～南側通路 .etc

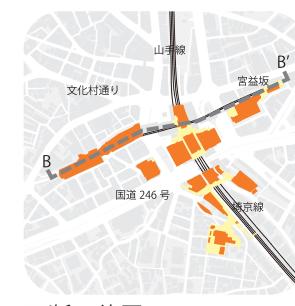


□断面位置

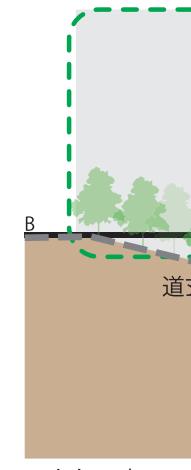


■まちの南北の断面イメージ

渋谷マークシティ



□断面位置



■まちの東西の断面イメージ

ローカルなシブヤ

地形とまちの使われ方の関係から、建物のレベルが1～2階に該当するパブリックスペースを若者向けの特徴を持つエリア「ローカルなシブヤ」として位置付ける。

- 該当するパブリックスペース
- ・ハチ公前交差点（スクランブル交差点）
 - ・旧大山街道
 - ・東口2階デッキ
 - ・宮益坂
 - ・西口駅前広場 - 北側
 - ・道玄坂 .etc

*広場等の名称については仮称のものです。